

箕 総 審 第 1 5 号
平成 22 年(2010 年) 6 月 29 日

箕面市長
倉 田 哲 郎 様

箕面市総合計画審議会
会長 黒 田 研 二

第五次箕面市総合計画について（答申）

平成 21 年(2009 年)10 月 26 日付け箕総計第 3 4 号をもって当審議会に諮問された第五次箕面市総合計画案について、慎重に審議を重ねた結果、原案の一部を修正・加筆して別添のとおり答申します。

また、総合計画の推進にあたっては、この答申及び当審議会の審議過程を十分尊重して計画を策定し、広く市民等に情報提供して協働によるまちづくりを進めるとともに、当審議会の審議過程において主要な論点となった下記の事項にも十分配慮されることを要望します。

記

1. 本総合計画は、先行き不透明な現下の社会経済状況を反映したものである。このような状況を克服し、計画の推進を図るため、財政力の強化と持続可能な発展に注力するとともに、市民や市議会等関係機関の理解と協力を得ながら、めざすまちの姿の実現に努められたい。
2. 本総合計画の全編を貫く視点として、「協働によるまちづくり」と「新たな地域経営によるまちづくり」を掲げている。この理念を市民と行政が共有し、「自助」・「共助」・「公助」の役割分担のもと、多様な主体がまちづくりに積極的に関わることができるよう、「箕面市まちづくり理念条例」、「箕面市市民参加条例」を活用し、その仕組みづくりや機運の醸成に努められたい。
3. 本市の最大の特徴は、豊かな自然に恵まれた良好な居住環境であり、本総合計画においても、「環境共生さきがけのまち」、「『箕面らしさ』を生かすまち」などの節を設けて多角的に記述されている。今後のまちづくりに際しては、豊かな自然環境との調和に特段の配慮をしながら、将来都市像として描いた都市イメージの実現とそれに伴う新しいまちづくりに努められたい。
4. 基本計画の成果指標については、審議会においても大きな論点となったところである。成果指標及び目標値の設定については、達成状況を踏まえて、適宜適切な見直しを図られたい。また、計画の進行管理及び後期基本計画の策定にあたっては、幅広く市民の参画を得るとともに社会経済環境の変化や財政状況に鑑み、適切かつ柔軟な対応を図られたい。